

令和5年度 公益財団法人大分県スポーツ協会 第3回理事会

日時：令和6年1月19日（金）10時30分～

場所：大分県庁舎本館2階 「正庁ホール」

理事

出席者 麻生 益直 岡本天津男 栗田 泰司 相馬 尊重 佐保 宏二
(24名) 宮成 康蔵 石川 明德 伊東 剛 内海 秀昭 衛藤 賢
大久保邦彦 岡部 司 川野 眞司 岐部 俊哉 佐藤 彰倫
末吉 新治 荷宮 利孝 羽田野明美 御沓 稔弘 村田 潤
森田 美穂 山田 美樹 柚木 徹 吉田 正史

欠席者 大場 俊二 加藤 寛章 河村 美香 豊田 正順 西川 幸宏
(6名) 牧 和志

監事

出席者 羽田野昭人 古庄 健一 穴井 哲也
(3名)

欠席者

(0名)

議事録作成者 専務理事 佐保 宏二

資格確認 押田総務部長が出席者理事24名で、定数の過半数であることから、本会定款第36条により、本会が成立することを報告した。

1 開式のことば

押田総務部長が開会のことばを述べた。

2 あいさつ

公益財団法人大分県スポーツ協会麻生会長が、あいさつを述べた。以下あいさつ文。

明けましておめでとうございます。皆様方には、健やかに新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。とは申したものの、年明け早々、能登半島地震が発生し、甚大な被害が発生しました。未だに安否不明の方もおられます。被災された皆様にご心よりお見舞い申し上げますとともに、1日でも早い復旧・復興を願っているところであります。

本日は、第3回理事会を開催いたしましたところ、皆様方には何かと御多用の中、御出席をいただき、誠にありがとうございます。また、平素から、本会の諸事業の推進並びに本県のスポーツ振興に格別の御支援・御協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

さて、昨年、鹿児島県で開催されました、特別国民体育大会では、長年の目標を見事達成し、天皇杯得点1091.5点、天皇杯順位18位という、大変素晴らしい成績を収めることができました。本協会役員の皆様にも、様々な面で御協力をいただいたかと思えます。改めて感謝申し上げます。

昨年11月10日に開催しました大分県代表団祝賀会では、佐藤知事にも御出席いただき、盛大に祝杯をあげることができました。ただ、この余韻にゆっくり浸る時間はあまりなく、来週1月27日からは、第78回国民スポーツ大会の冬季大会が始まり、「チーム大分」の佐賀国スポに向けた戦いが幕を開けます。冬季競技は、厳しい練習環境の中での出場となりますが、

「チーム大分」の誇りを持って臨んでいただきたいと思います。

さて、今年度も残り3ヶ月を切りましたが、本県スポーツ少年団最大のイベント「大分県スポーツ少年団駅伝交流大会」をはじめ、まだまだ事業が続きます。引き続き、円滑な運営に努めたいと考えております。

本日の理事会は、令和5年度補正予算やスポーツ協会表彰などが主な議案となっております。限られた時間ではありますが、十分な御審議をいただき、忌憚のない御意見を賜りますようお願い申し上げます、挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

3 議長選出

以下、進行より、議長及び議事録署名について説明がなされた。

理事会規程第6条では、「理事会の議長は会長がこれにあたる」となっておりますので、麻生会長に議長をお願いいたします。

また、議事録署名については、定款37条に「出席した代表理事及び監事は、議事録に記名押印する」となっておりますので、その旨よろしくお願いいたします。

以下、議長による進行。

4 報告事項

以下の報告事項について、宮成常務理事兼事務局長より説明がなされた。

- (1) 特別国民体育大会大分県代表団について
- (2) 特別国民体育大会成績について
- (3) 第43回九州ブロック大会冬季大会大分県代表団について
- (4) 第43回九州ブロック大会冬季大会成績について
- (5) 第78回国民スポーツ大会冬季大会大分県代表団について
- (6) 全国表彰受賞者について
- (7) 各種大会成績について（令和5年度第2回理事会以降）
- (8) 寄附金受入に伴う感謝状贈呈について

【(1) 特別国民体育大会大分県代表団について】

レジュメの1ページを御覧ください。鹿児島国体の大分県代表団役員については、麻生益直団長、岡本天津男副団長、佐保宏二総監督の他、総務員17名、総勢20名でございました。

2ページをお開きください。参加人数一覧表には、各競技の監督・選手の参加人数を記載しております。表の右下にございますが、総勢470名の参加でございました。各競技の参加者名簿を2ページから8ページまで記載しております。詳細については、後刻御覧ください。

なお参加者名簿については、申込時点の名簿でございます。申込後に変更のあったものについては、8ページの選手及び監督の交代一覧に記載しておりますことを申し添えます。

以上が、大分県代表団についての御報告でございます。

【(2) 特別国民体育大会成績について】

レジュメ9ページからになります。特別国民体育大会成績について御報告いたします。冬季大会が青森県と岩手県で、本大会が鹿児島県で開催されました。本県の総合成績は、天皇杯得点1091.5点、総合順位は18位となり、平成22年の千葉国体以来13年ぶりに、「チーム大分」の目標でありました天皇杯得点1000点を大きく超える歴史的な大会となりました。

次に、2の都道府県総合成績を御覧ください。総合優勝は、昨年につき、開催県が獲得できず、東京都が獲得いたしました。上位10県には、大阪府、愛知県、埼玉県、神奈川県など、人口順位

10位以内の府県が位置しております。10位以降を見ますと、兵庫県、北海道といった人口順位の上位県に加え、国体を開催した又は開催予定である、福井県、三重県、栃木県、また、来年以降開催予定の佐賀県、滋賀県が位置している状況でございます。こうした中、人口順位34位、平成20年の大分国体から15年が経過した本県が1091.5点を獲得し、18位に位置したことは誇れることであり、本県のスポーツの力を全国に発信できたと考えております。

次に、3の九州各県総合成績比較を御覧ください。本県は表にあります通り、開催県の鹿児島県、1桁順位常連の福岡県、来年国民スポーツ大会を開催する佐賀県に次ぐ、九州第4位の成績でございました。

レジュメ10ページをお開き下さい。優勝一覧でございます。団体競技では、記載の4競技4種目で優勝しました。会期前に実施されたゴルフ競技において、成年男子が初優勝したのをはじめ、フェンシング成年男子、なぎなた少年女子、アーチェリー少年女子が連覇を達成いたしました。

レジュメ11ページを御覧下さい。個人の優勝一覧でございます。記載の3競技8種目で優勝いたしました。そのうち、空手道競技の西山走選手は、形で3大会連続の優勝、大野ひかる選手は、同じく形で4大会連続の優勝、ライフル射撃競技の野畑美咲選手は、2種目優勝、陸上競技の兒玉芽生選手は、100mで2連覇でございました。

以上、団体・個人競技をあわせた12種目での優勝は、大分国体後、最高の優勝数でございました。

レジュメ12ページには入賞者一覧、13ページから28ページにかけては、大分県選手団の全成績となっています。詳細につきましては、後刻御覧下さい。

今大会の成果の特徴としては、長年の強化策が実ったことが挙げられます。具体的には、ジュニアアスリート発掘事業で適性を見いだされた選手の活躍や、ホッケー・ソフトボールでの中長期の選手育成計画策定により、数年間かけて得点を獲得した競技など、ジュニアからの一貫指導体制構築で成し得た結果によるものが特徴です。来年の佐賀国民スポーツ大会に向けましては、今回の成果を一過性のものにならないよう、県競技力向上対策本部と連携して、強化の取組み内容を競技ごとにしっかり分析したいと考えております。

以上でございます。

【(3) 第43回九州ブロック大会冬季大会大分県代表団について】

【(4) 第43回九州ブロック大会冬季大会成績について】

第43回九州ブロック大会冬季大会大分県代表団についてと、冬季大会成績については関連がございますので一括して御報告いたします。

レジュメ29ページを御覧ください。冬季大会アイスホッケー競技では、井原団長をはじめ本部役員5名、成年男子の監督選手21名で出場いたしました。詳細については記載の通りでございます。

レジュメ30ページをお開きください。冬季大会成績についてです。アイスホッケー競技は、AB2つのリーグに分かれてのリンク戦形式で実施されました。大分県成年男子の試合結果は、赤枠で囲っております。1日目は、鹿児島県と対戦し、没収試合により15-0で勝利いたしました。鹿児島県チームの監督が不在ということが試合途中で判明し、大会規定により没収試合となりました。没収試合の場合は、「15対0とする」というルールになっております。2日目は宮崎県と対戦し、1-12で敗戦しました。最終的な総合順位は6位となり、代表権獲得には至りませんでした。なお、31ページには九州各県の代表権獲得一覧を記載しております。

以上でございます。

【(5) 第78回国民スポーツ大会冬季大会大分県代表団について】

レジュメ32ページをお開きください。先程、昨年の鹿児島県国体の成績を御報告したばかりですが、今月末からは、第78回国民スポーツ大会冬季大会が開催されます。スケートは北海道苫小牧市で、スキーは山形県内の3市町で開催されます。本県代表団ですが、本部役員を県スキー

連盟会長の玉田団長以下、副団長2名、総監督に佐保専務理事、他総務員2名の計6名で編成いたします。選手団は、スケート競技を、監督1名・選手1名で、スキー競技を、監督3名、選手15名で編成いたしました。なお、本日15時から、大分県代表団の結団壮行式をおこなうこととしております。

以上でございます。

【(6) 全国表彰受賞者について】

レジュメ33ページをお開きください。①文部科学大臣表彰は、永年にわたり、体育・スポーツの振興・発展に功績のありました、個人・団体を表彰するものです。生涯スポーツ功労者として、末宗公明様、佐々木暁美様の2名が。また、生涯スポーツ優良団体として記載の3団体が表彰されました。

次に②公益財団法人日本スポーツ協会公認スポーツ指導者等表彰は、資格取得後15年以上にわたりスポーツの普及振興及び指導者育成等に尽力し、顕著な功績をあげた方々に対する表彰です。指導者の部として、尾野耕一様、同じくスポーツドクターの部として、久保徳彦様が表彰されました。

最後に③日本スポーツ少年団顕彰は、永年にわたりスポーツ少年団の発展に貢献し、特に顕著な功績のある「登録指導者」「市区町村スポーツ少年団」に対する顕彰です。表彰指導者として、高橋幹雄様、表彰団として津久見市スポーツ少年団の1団体が表彰されております。

改めて、全国表彰を受賞されました皆さまにお喜びを申し上げますとともに、今後ますますの御活躍を御祈念いたします。

以上でございます。

【(7) 各種大会成績について (令和5年度第2回理事会以降)】

レジュメ34ページから36ページになります。34ページ上段に記載のとおり、9月1日から1月9日までの期間において、全国大会・国際大会ベスト8以上の成果をあげた本県関係者の記録を掲載しております。なお、国体については、別途国体成績で報告しておりますので、記載はございません。本県の選手が、多くの大会で優勝入賞の活躍をしております。

レジュメ36ページ記載の空手道競技ですが、これまで大分県のスポーツを引っ張ってきた大野ひかる選手が、ハンガリーで開催された世界選手権大会、その後の全日本空手道選手権大会の優勝を持ちまして、現役選手の引退を発表致しました。大野選手につきましては永年トップアスリートとして世界の舞台で活躍し県民に明るいニュースを届けてくれました。本当にありがとうございました。また、お疲れ様でございました。

他の詳細についての説明は割愛いたしますが、引き続き、本県関係者の活躍を期待したいと思います。

以上でございます。

【(8) 寄附金受入に伴う感謝状贈呈について】

レジュメ37ページを御覧ください。寄附金受入に伴う感謝状贈呈について御報告いたします。

まず、下段記載の参考を御覧ください。表彰規程の第6条で本会の運営並びに事業の推進に功績のあった個人及び団体に感謝状を贈ることができるとございます。今回、黒四角、感謝状贈呈に関する内規の、下線部分(2)本会に対して一定額を超える額を寄附した団体がありましたので、内規に基づき理事会で報告をするものです。

上段に戻りまして、(1)一般財団法人青少年交流振興協会様です。寄附額は、20万円でございます。同協会は、元城島高原ゴルフクラブ所属のプロゴルファーである鈴木規夫様が理事長を務めており、毎年、御寄附いただいております。概要については、記載しておりますので御覧ください。本年は、11月11日に「第21回エンジョイゴルフin大分」が、別府市の城島高原ゴルフクラブで開催され、その益金の一部を御寄附いただきました。当日は、寄附金贈呈式に、

宮成が出席し、感謝状を贈呈いたしました。

次に、(2) 明治安田生命保険相互会社大分支社様です。寄附額は82万4千円で、「私の地元応援募金」として従業員の皆様からの募金と、会社からの拠出を上乗せして行う募金となっております。本日、本会終了後に寄付金贈呈式とともに、麻生会長より感謝状の贈呈を行う予定としております。

以上でございます。

《麻生議長が、上記のことについて議場に質疑を求めた》

《質疑無し》

5 議事

以下の議案について宮成事務局長より、説明がなされた。

議案1 令和5年度補正予算について

議案2 令和5年度大分県スポーツ協会表彰について

議案3 評議員会の開催について(3月の臨時評議員会)

【議案1 令和5年度補正予算について】

それでは、令和5年度補正予算(案)について御説明いたします。レジュメ38ページからになります。

本会の会計は、公益法人会計として、大分県スポーツ振興事業、大分県スポーツ少年団事業、大分県スポーツ普及・表彰事業の3事業の会計と、事務局運営に係る法人会計の4会計からなっています。それぞれの会計ごとの補正予算(案)は、39ページから42ページにかけて詳細を記載していますが、わかりやすくするために、A3概要版縦を使って説明させていただきます。恐れ入りますが、レジュメの方向を変えていただきまして御覧ください。

表の両端の小さな数字は行数を示しています。補正額の欄の△は、当初予算からのマイナスを示しています。経常収益の科目右側の○数字は、経常費用のどの部分にリンクしているかを示しているものです。この補正については、例年12月までの実施事業や事業中止等を踏まえ、予算を補正するものでございます。

まず、2行目から47行目に記載している経常収益いわゆる収入ですが、大科目で説明をいたします。3行目の特定資産運用益、4行目の受取会費については補正はございません。10行目の事業収益は、当初予算から16万8千円減額の、1413万6千円、27行目の受取補助金等は、当初予算から413万2千円減額の、2億4853万1千円、37行目の受取寄附金は、当初予算から212万9千円増額の、832万9千円、以上の金額を合計したものが、47行目の経常収益計で、当初予算2億8935万3千円から、216万7千円減額の、2億8718万6千円となります。

次に経常費用、いわゆる支出の部でございます。支出は、公益目的事業ごとにまとめておりますので、それぞれ事業毎に説明いたします。

49行目、①大分県スポーツ振興事業です。53行目の国体参加に係るPCR検査が、参加義務ではなくなったことに伴う減額で、当初予算から437万7千円の減額の、2億3446万3千円となります。次に、54行目、②大分県スポーツ少年団事業です。荒天等により大会中止等があり、当初予算から、87万3千円減額で、739万6千円、次に、61行目、③大分県スポーツ普及・表彰事業です。年度当初の予算案策定後に、新規事業として、63行目の総合型地域スポーツクラブ連絡協議会の運営費として30万円の増額などもあり、当初予算から33万3千円増額の374万5千円となります。次に、70行目、④法人会計・管理費です。人件費や消耗品費の増、また複合機入替による経費等を計上し、当初予算から、74万2千円増額の762万2千円です。71行目の経常費用計は、当初予算から、225万1千円減額の、2億8822万円

となります。77行目、当期経常増減額です。こちらが補正予後の予算額の最終的な増減を示しています。4会計それぞれの経常増減額は、記載のとおりでございます。トータルでは、当初予算から8万4千円補正し、現時点での補正後予算額が、103万4千円の赤字の見通しとなっております。赤字については第1回理事会でも御説明した通り、公益法人の収支相償の観点から、これまでの利益を内部にとどめずに公益目的事業に充てるように取り組んでいるものでございます。

以上で令和5年度補正予算（案）の説明を終わります。

御審議よろしく願いいたします。

《麻生議長が、上記のことについて議場に質疑を求めた》

《質疑無し》

《麻生議長が、上記のことについて承認を議場に諮った》

《全会一致で承認された》

【議案2 令和5年度大分県スポーツ協会表彰について】

それでは、令和5年度大分県スポーツ協会表彰について、御説明いたします。レジュメは43ページからとなります。

記載の通り、4つの表彰区分で表彰者を選定しております。なお、表彰規程については、57ページから59ページに掲載させていただいておりますので、御確認ください。規程に基づき、加盟団体等に推薦依頼を行うとともに、事務局において、対象者の選定を実施した結果を説明します。

レジュメ44ページをお開きください。まず、スポーツ功労賞の受賞候補者です。この賞は、各分野での長年の功績を讃えるものです。加盟競技団体からの推薦2名、地域体育・スポーツ協会からの推薦2名・2団体、スポーツ医科学委員会関係団体からの推薦3名でございます。候補者の氏名や推薦理由は、記載の通りです。すべての候補者が受賞資格を満たしており、スポーツ功労賞の受賞者として提案いたします。

次に、レジュメ45ページを御覧ください。スポーツ優秀賞の受賞候補者です。(1)選手部門は、全国的大会での優勝、国際大会への日本代表としての出場、日本記録を更新した選手・チームが対象です。記載の通り、競技団体から26の個人・団体の推薦がございました。(2)指導者部門は、本県在住で本県に活動拠点があり、活動実績を5年以上有している者の中から、全国的大会での優勝や継続して全国トップレベルの成績をあげた指導者が対象となります。本年は、記載の2名の指導者が対象となります。(3)競技団体部門は、国民体育大会で競技別総合順位3位以内の成績を収めた競技団体が対象です。今回は記載の通り、ライフル射撃競技とラグビーフットボール競技が対象となります。以上、スポーツ優秀賞の3部門の全ての候補者が、受賞資格を満たしており、スポーツ優秀賞の受賞者として提案いたします。

次に、46ページから56ページに記載しております、スポーツ奨励賞の受賞候補者です。この賞は、中学生は全国中学校体育大会、高校生は全国高等学校体育大会で、8位以内に入賞した生徒が対象です。46ページを御覧ください。中学校体育連盟からの推薦により受賞した学校別の人数一覧でございます。今回、推薦されたのは82名でございます。48ページから50ページに詳細を記載しております。51ページを御覧ください。高等学校体育連盟からの推薦により受賞した学校別の人数一覧でございます。今回、推薦されたのは102名でございます。52ページから56ページに詳細を記載しております。いずれも、大会記録と照合し、全て基準をクリアしておりますので、全ての候補者を、スポーツ奨励賞の受賞者として提案します。

なお、1点重ねてお諮りしたい点がございまして、それは特例措置による受賞者の救済についてでございます。令和4年度から本表彰規程を変更して実施していますが、令和3年度までの表彰規

程であれば本来受賞できた中高生が、制度変更の狭間で受賞できないという不都合が発生していることを把握致しました。そこで特例措置として、令和3年度に、本来であれば受賞対象となる者に対して、今回改めて表彰する特例を御提案いたします。

恐れ入りますが、レジュメ47ページを御覧ください。対象は表右側に令和3年度競技成績による表彰と標題されている明豊中学卓球部の2名。次に51ページをお開きください。同じく表右側に記載されている別府翔青高校水泳部、ヨット部の2名をはじめ記載の21名を対象と致します。

本来であれば事務局が不利益のないように制度変更を図る必要がありましたが、全てに対応しきれていませんでした。大変申し訳ございません。以上、御説明したように今回の特例措置で救済することを重ねて御提案いたします。

次に、レジュメ46ページにお戻りください。特別表彰についてです。(1)の国際大会特別賞は、日本代表として国際大会に出場しメダルを獲得した選手及び指導者を対象としております。記載の7名が対象でございます。(2)の国民体育大会特別賞は、平成21年度以降の国民体育大会において、3大会以上での優勝、10大会以上での入賞が受賞資格となります。今回、事務局で過去の記録を確認したところ、記載の5名が該当しておりました。次に(3)会長特別賞です。これは国際大会特別賞及び国民体育大会特別賞に該当する者以外で、本県のスポーツ振興に顕著な功績があった者が対象でございます。今回は記載の黒石勇次選手を推薦いたします。黒石選手は現在57歳。セーリング競技のウィンドサーフィンの選手でございます。これまで国体出場23回、その内入賞8回の実績でございます。昨年の鹿児島国体にも出場し、57歳という年齢で見事3位入賞を果たしました。ウィンドサーフィン界ではレジェンドとして関係者から敬意を払われております。事務局としましても、永年の競技活動、また本県だけでなく、全国的にウィンドサーフィンの振興にも努められてきた点を鑑み、会長特別賞に推薦いたします。

以上、スポーツ功労賞7名2団体、スポーツ優秀賞30の個人団体、スポーツ奨励賞184名、特別表彰12名を今年度の大分県スポーツ協会表彰として御提案いたします。

御審議よろしくお願いたします。

なお、現在、理事の皆様には2月14日に開催されますスポーツ協会表彰式の御出席の案内をお送りしております。御都合つきましましたら是非御出席をお願いいたします。

《麻生議長が、上記のことについて議場に質疑を求めた》

村田理事

スポーツ奨励賞の特例措置について、表彰規程を変えたことによる経過措置ということであるが、これは今年だけなのか。それとも、来年もあるのか教えていただきたい。

宮成事務局長

今回だけになります。表彰規程改定前は、3年間で全国ベスト8に入った場合、卒業時に表彰しておりました。当時の1、2年生が卒業時にもらう予定だったが、その選手達が漏れていたということになります。今回その選手達にお渡しすれば、全て解消されることになります。

《その後、質疑無し》

《麻生議長が、上記のことについて承認を議場に諮った》

《全会一致で承認された》

【議案3 評議員会の開催について（3月の臨時評議員会）】

それでは、評議員会の開催について御説明いたします。レジュメは61ページになります。

まず、評議員会の開催に係る規定について説明いたします。中段下に記載のとおり本会定款第

20条で評議員会は定時評議員会及び臨時評議員会の2種とする。3、臨時評議員会は、毎事業年度終了前2箇月以内に開催するほか、必要がある場合に開催する。併せて、第21条です。「評議員会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき会長が招集する。」となっております。

この定款の規定に基づき、評議員会を開催については、理事会の決議が必要となるものです。上段の(1)～(3)に記載のとおり、評議員会を開催することについてご提案申し上げます。御審議宜しくお願いいたします。

《麻生議長が、上記のことについて議場に質疑を求めた》

《質疑無し》

《麻生議長が、上記のことについて承認を議場に諮った》

《全会一致で承認された》

6 その他

以下の内容について宮成事務局長より、説明がなされた。

(1) 令和5年度賛助会加入状況について

その他について、説明いたします。レジュメ62ページをお開きください。令和5年度賛助会加入状況についてです。

1月10日時点で、法人176件、個人159件の加入をいただき、賛助会費合計で683万5000円でございます。件数は、前年比で27件増加、会費については、44万円の増額となっております。下段に平成29年度からの賛助会加入状況を記載しており、これまでの過去最高額となりました。御協力誠にありがとうございました。

今年度、本会の中期経営計画の中で、令和9年度までに賛助会費1000万円を達成すると計画しております。それに向けても、麻生会長をはじめ事務局員で取り組んでいるところでございます。なお、右側に会員一覧を掲載しております。また裏表紙には、法人5口以上の会員の広告バナーを掲載しております。理事の皆様にも、賛助会の加入をお願いするとともに、賛助会の拡充に向けて、引き続き御協力をお願いいたします。

その他の説明は、以上です。

《麻生議長が、上記のことについて議場に質疑を求めた》

《質疑無し》

7 閉会のことば

押田総務部長が閉会のことばを述べた。

令和6年1月19日

会 長 麻生 益直

副会長 岡本天津男

監 事 羽田野昭人

監 事 古庄 健一

監 事 穴井 哲也